

AEDの学校屋外設置について～（宮城県）仙台市教育委員会～ 「いつでも使える！みんなが使える！AED」

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、学校・保育所等の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害、又は死亡）に対して、災害共済給付（医療費、障害見舞金、死亡見舞金の支給）を行っています。また、災害共済給付の実施によって得られる事故情報を活用して、調査研究や情報提供を行い、学校・保育所等での災害の減少を図ることとしています。

今回は、全ての仙台市立学校・園の屋外に自動体外式除細動器（以下「AED」という。）を設置したことについて、仙台市教育委員会生涯学習課（以下「生涯学習課」という。）の生涯学習係長 細川知子様と主査兼社会教育主事 青沼伸吾様に、地域との連携を図りながら児童への安全教育が行われている、仙台市立荒町小学校（以下「荒町小」という。）の野村文弥教頭先生にお話をお聞きしましたのでご紹介します。



左から細川係長と青沼主査



野村教頭先生

【生涯学習課について教えてください】

生涯学習課は、市民の生涯学習の振興に資するため、仙台市天文台、せんだいメディアテーク、仙台市大倉ふるさとセンター、仙台市泉岳自然ふれあい館を所管し、指定管理者に委託し運営を行っています。また、こどもたちが、読書に親しむ環境をつくり、読書を通して心豊かに、しなやかに生きる力を育むことを目指し「仙台市子ども読書活動推進計画2024」に基づいた取組みも推進しています。他にも、仙台地域の多様なミュージアムの連携組織である「仙台・宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）」では、せんだいメディアテークや天文台はもちろんのこと、仙台うみの杜水族館や東北大学植物園などの仙台市立の施設以外の文化施設とも連携し、多彩なプログラムや情報発信も行っています。地域社会教育の推進では、『社会学級』として、学区内の成人の方に小学校を活動場所として学ぶ場を提供したり、『嘱託社会教育主事活用事業』や『地域学校協働活動推進事業』では、学校と地域を結ぶ様々な活動をしていたり、学校と地域が相互に連携・協働しながら学校を核とした地域づくりを目指して活動をしています。学校施設活用事業の『学校体育施設開放事業』は、今回の屋外AEDを設置した事業でもありますが、小学校

や中学校の校庭や体育館を、平日の夕方から夜間・土日祝日などに、学校の授業等の支障のない範囲で地域のスポーツの団体等に開放しています。他にも小学校の空き教室を学習活動室として地域に開放する『マイスクールプラン21推進事業』や、週末に小学校の図書室等を開放して図書の閲覧・貸し出しのほか、読み聞かせなどの催しを行う『学校図書室開放事業』を実施しています。この他、障害のある方が生涯を通して学べる取り組みを行ったり、PTA活動を支援したりしています。旧成人式である、二十歳を迎える市民をお祝いする『仙台市はたちの集い』も、生涯学習課が中心となり開催しています。今説明した以外にも様々な事業があり、生涯学習課は、こどもだけでなく、幅広い年代の市民に向けた多岐にわたる事業を行っています。AEDに関係するところでは、PTAが夏休みのこどもたちに学校のプール開放を行っています。先日開催した監視員研修会では、AEDの屋外設置について説明し、いざという時には使っていただくよう案内したところです。

【なぜAEDを屋外に設置することになったのですか】

平成17年から市立の中学校・高等学校・特別支援学校の屋内に1台ずつ、その後、平成20年から市立小学校全校に設置しました。その目的としては、基本的には学校の管理下内で何か発生した際に、児童生徒や教職員に使用するためでした。しかしながら近年、平日の学校管理下外の時間や休日の学校施設開放の時間に利用団体などがAEDを使用した事案が複数あり、例えば、夜たまたま先生が学校にいてAEDを使用することができ、その方は一命を取り留めることができたということがありました。また、学校が投票所となる選挙の時もAEDが必要な場面がありました。平日の時間外や休日は、基本的には学校の教職員はいない時間ですので、AEDを使用しなければいけない場面が発生した時に、いつでも使えるAEDが必要なのではないかという意見が学校や地域等からもあり、屋外AEDについて検討することとなりました。当初、学校の中にあるAEDを体育館に移動させることや学校の窓ガラスを割って取りに行く等検討しましたが、現実的ではなく、やはり、命に代わるものは無い！ということで、屋外にもう1台設置することになりました。令和7年度には100校に収納箱を設置し、今年度は、残りの学校に設置する取り組みを進めているところです。仙台市は、冬になると氷点下まで気温が下がるところもあるため、そういう環境にも耐えうる仕様の収納箱が必要で、また、市内には200弱の学校があり、製造に時間を要することから、2カ年かけて設置することとしました。中に入れるAED本体については、令和7年度から全校へのリースを始めているので、収納箱未設置の学校については、設置が終わったらAED本体を収納箱に入れてもらうようお願いしています。屋外設置ということで、児童生徒や学校施設開放の利用団体だけでなく、地域の方にも使用していただきたい！という思いで進めています。また、屋内AEDのバックアップ機能も兼ね備えています。

屋外に設置するにあたり、収納箱はそれなりに機能性の高いものであることから重さもあり、設置できる建物にも強度が必要とのことで、設置場所を決めるのに苦労したところもありました。本来であれば、体育館の外壁に設置できれば一番利便性が高いという学校

も多かったのですが、材質上の問題で設置できず、急遽、学校に再検討してもらったり、実際に我々が学校に訪問して一緒に検討したりしたこともありました。施設開放団体の方も使えて、児童生徒に何かあった時に取り出せて、かつ、地域の方も使える場所となると限られてくるので、学校の苦労も大きかったと思います。以前は、氷点下を下回る地域だと、電源を入れて使用する収納箱しかなかったようですが、だいぶ技術も進化して、本市が設置したのは、電源なしでも氷点下に耐えうる収納箱になっています。

仙台市では、東日本大震災後、仙台版防災教育副読本「3.11から未来へ」を使った授業を小学校と中学校全学年で行っています。また、主に小学5年生は、震災遺構仙台市立荒浜小学校へ見学に行き、震災、防災について学んでいます。継続的にある程度時間をかけて事前学習から行い、実際に自分たちがそういう場面に遭った時に何ができるかを考え、こどもたちの防災意識と知識の定着を図り、命を守る取組みを行っています。



仙台市ホームページ「リンク集」
「仙台版防災教育副読本」より掲載

【今後、現場であったらいいな！と思う資料などはありますか】

災害共済給付Webを拝見し、パンフレットやDVDなど充実した資料（※参考資料参照）がたくさんあると感じました。スポーツ事故防止ハンドブックは、よくありかつ危険な事案がまとめられているので、学校関係者だけでなく地域の方も使えるものだと思います。我々も屋外設置のAEDがあることをどういう風に広く知らせていくことが課題ではありますが、広くたくさんの人に資料を活用してもらうことが大事かなと思います。

【荒町小について教えてください】

荒町小は、明治6年、「一番小学校」としてスタートし、同9年に「知新小学校」と改称しました。「知新」は「温故知新」からの命名となっています。この校名を名乗ったのはわずか3年にすぎませんが、「知新」という言葉は、児童や卒業生の心に深く刻み込まれました。そして、現在に至るまで児童や教師を励ます無言の校是として、また、合言葉として受け継がれています。

現在、児童数425名の18学級で運営しており、全教職員が児童全員の顔と名前を一致させやすく、日頃の小さな体調の変化や安全面の配慮にも、比較的目的が届きやすい規模感だと捉えています。

本校は、『☆夢いっぱい荒町小学校☆ ～みんなの心がひびき合い やさしさあふれる楽しい学校～』を教育目標に掲げ、一番小学校として、古くからのコミュニティが息づく地域

に位置しています。地域連携については非常に盛んで、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置」「地域全体での子まもりプロジェクト」「地域の伝統行事への参加」などを通じ、『地域とともにある学校づくり』を進めています。地域の皆様が我が子のように児童を見守ってくださる、非常に温かい土壤があるのが自慢です。

【AEDを屋外に設置していかがですか】

最大のメリットは、『学校閉庁日や夜間・休日でも、地域の誰もが24時間いつでもアクセスできる安心感』です。地域のスポーツ団体が校庭を利用する際や、近隣住民の万が一の事態にも対応できるため、学校が地域の『命のセーフティネット』としての役割を強化できたと感じています。設置当初は、いたずらや盗難、厳しい気象条件（直射日光や冬場の低温）による機器への影響、バッテリー管理の手間を懸念していましたが、防犯カメラの視認範囲への設置や保管ボックスの温度管理機能の導入により、現在は、大きなトラブルもなく運用できています。『命を救うチャンスを平日の昼間だけに限定しない』という選択は、地域連携を掲げる本校としても非常に意義深い一歩だったと感じています。



荒町小に設置された屋外AED



屋外AEDの収納箱

【事故防止の取り組みで大切にしていることはありますか】

こどもたちには、ただ『ダメ』と禁止するのではなく、『なぜ危険なのか、どう行動すれば自分と友達の命を守れるか』という理由を考えさせることを大切にしています。また、体調が悪い時は、我慢せずにすぐ大人に伝えるよう、繰り返し指導しています。

教職員間では、ヒヤリハットの迅速な共有を徹底しています。どんな些細なことでも、職員会議や朝会で情報共有し、全員が『我が事』としてリスクを認識するよう努めています。また、JSCの災害共済給付の過去のデータ等（※参考資料参照）も参考にしながら、体育の授業や休み時間の危険予測・学級での指導に活かしています。

地域の方（見守り隊や保護者）からは、校庭や通学路の危険箇所について気づいた点をすぐに学校へフィードバックしてもらえる関係性を維持しています。学校・家庭・地域が三位一体となって『こどもの命を守る環境』を作ることが、何より大切だと考え取り組んでいます。



取材した日は、荒町小学校防災の日として、
全学年が防災について学び、午後からは、保
護者への引き渡し訓練が行われていました。



仙台市若林区を中心に活動されている「地域夢つなぐ実行委員会 Wakka(わっか)」さんからは、「防災ダック」というカードゲームや、AED 機能付きのあっぱくんライトを使った心肺蘇生体験、気象のお話などが行われていました。また、消防署の方からは、防災のお話や強風体験が行われていました。

【今後、学校現場であつたらいいな！と思う資料などがありますか】

ＪＳＣさんで発行されている資料や統計はいつも参考にさせていただいており、感謝しております。その上で、①『児童がタブレット等で自学できる、短時間の事故防止クイズや動画コンテンツ（学級活動や朝の短時間学習で、こどもたちが主体的・視覚的に危険予測を学べるもの）』②『屋外ＡＥＤ設置・運用に関する他校の成功事例やトラブル対策のナレッジ集』③『保護者や地域住民向けにそのまま配れる、学校の安全管理への理解を促すリーフレット』があるとさらに有り難いです。また、東北地方特有の事情（冬場の積雪・凍結時の校庭の危険性や、寒冷地における屋外ＡＥＤの管理の工夫など）に関する資料などもあれば良いかもしれませんね。

【取材を終えて】

学校安全については、学校と家庭、地域の関係機関・団体等及び学校相互の連携や情報交換を密にし、地域ぐるみで安全を守り、安心して学校生活が送れるように環境を整えるとともに、児童生徒等へ実践的な安全教育を実施する必要があるとされています。今回取材させていただいた荒町小では、学校安全の連携体制づくりに苦慮している学校がたくさんある中、安心・安全に学校生活を送れるよう地域と一体となって取り組み、また、児童自身も、もしもの時は、自分自身の命はもちろんのこと、周りの人を助けられるように学んでいたことが、あらためて大切な取り組みだと感じました。生涯学習課では、学校や地域の方からの意見等を踏まえ、積極的に関係機関と連携を図り、広く市民のために取り組んでいることが、巡り巡って、児童生徒だけでなく、学校が地域や関係機関と一体となった取り組みができるように支援していることに繋がっていると感じました。このような取り組みが、少しでも多くの学校・保育所等で行われ、少しでも重災害が減少することを願っております。

最後になりますが、お忙しい中取材にご協力いただいた皆様ありがとうございました。



【お願い】

JSCでは、多くの事故防止資料を災害共済給付Web等で提供しています。こども向けや保護者、先生方向けなどご利用いただける資料が多数ありますので、是非ご活用ください。また、学校・保育所等の管理下の事故防止について、説明会や研修会でご利用いただける給付状況や資料等も提供していますので、お気軽にご相談ください。

<参考資料>

- ・ [災害共済給付Web](#)
- ・ [事故防止啓発資料・お役立ちコンテンツ](#)
- ・ [学校等の管理下の災害](#)
- ・ [災害共済給付の給付状況等について](#)



【問い合わせ】日本スポーツ振興センター災害共済給付事業部仙台支所
TEL : 022-716-2106 E-mail : saigaikyosai-sendai@jpnspport.go.jp